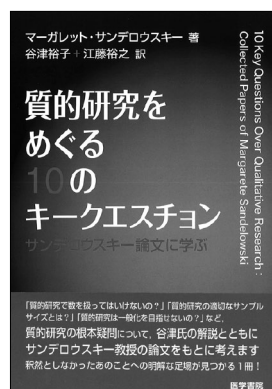


『質的研究をめぐる 10 のキークエスチョン サンデロウスキー論文に学ぶ』 すべての質的研究者に 読んでほしい

著：マーガレット・サンデロウスキー／訳：谷津裕子，江藤裕之
定価：本体 3,800 円 + 税／発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



例えば次のような一節を読んで、質的研究に関心をもつあなたはどう感じるだろうか？

「よい質的研究を行うには、数を扱う能力が非常に重要です」「質的研究は一般化を目指せます。一般化のエッセンスが詰まっているのです」「質的記述的研究は解釈や理論を含まない“お手軽な”研究ではありません」

おそらく、疑問が次から次へと湧き出てきて、考え始めてしまうのではないか。

本書は質的研究の方法論に関するものであるが、方法論の How to を紹介する一連の書籍群とは一線を画すものである。ノースカロライナ州立大学チャペルヒル校看護学部教授であり、質的研究方法論に関する著名な研究者、マーガレット・サンデロウスキー博士による質的研究に関する珠玉の論文 10 篇が紹介される。扱われている内容は、質的分析、数(量化)、サンプルサイズ、一般化、時間、逐語録、引用、質的記述的研究とその誤解、理論。どれをとっても質的研究者の関心を引くものとなっている。

本の構成は、これらについて章ごとに、問いの提示(キークエスチョン)、それに答えるサンデロウスキー論文、そしてその論文とキークエスチョンとのつながりの解説という形となっている。

10 篇の論文は、これまで谷津裕子氏による論文や学会交流集会等での引用、日本赤十字看護大

学で定期開催されている研究会 JRC-NQR で断片的に紹介されてきた。それが今回、英語がご専門の江藤裕之氏との出会いにより書籍という形でまとめられ、より多くの読者に届けられることとなった。

サンデロウスキー博士は論文中、さまざまな言い方で、質的研究が厳しい学問の手順を必要とする科学的側面をもつ一方、方法やテクニックに縛られすぎず社会的想像力を発展させて使う力、そして自分自身が自分自身の研究の方法論者となる力「intellectual craftsmanship (知的職人芸)」(p.4, p.166)を必要とするものであると伝えている。提示された 10 の問いに答える論文には、一人ひとりの研究者が自分の頭で考え抜いてほしいというメッセージが込められている。そしてこの本には、その大切さを、サンデロウスキー論文を通して発信していきたいという訳者等の熱い願いが込められている。その意味で本書は、サンデロウスキー論文の単なる翻訳集を超えるものである。

読み終えて、質的研究者の端くれとして襟元を正された。「intellectual craftsmanship」をもち、そしてもち続けられるようにしていきたいと切に思う。それは自ら厳しく責任を負っていくことでもあるが、がんじがらめのマニュアル主義から自由になり、混沌とした現象のなかから私たちにとって大切な何かを見出す道に開かれることだから。